

製品名: PNPase ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16329**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	PNPT1 PNPT1; PNPASE; Polyribonucleotide nucleotidyltransferase 1; mitochondrial; 3'-5' RNA
別名	exonuclease OLD35; PNPase old-35; Polynucleotide phosphorylase 1; PNPase 1; Polynucleotide phosphorylase-like protein
遺伝子 ID	87178.0
SwissProt ID	Q8TCS8
免疫原	抗血清はヒト PNPT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 570-619

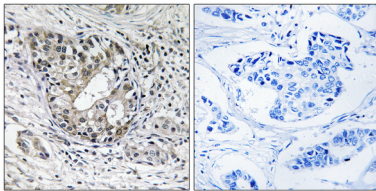
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、進化的に保存されたポリヌクレオチドホスホリラーゼファミリーに属し、RNAのプロセッシングと分解に関与するリン酸依存性 3'-5'エキソリボヌクレアーゼから構成されています。この酵素は主にミトコンドリア膜間腔に局在し、ミトコンドリアへのRNAの輸入に関与しています。この遺伝子の変異は、複合型酸化リン酸化欠損症-13 および常染色体劣性非症候性難聴-70 と関連付けられています。関連偽遺伝子は 3 番染色体と 7 番染色体上に存在します。[RefSeq 提供、2012 年 12 月],触媒活性: RNA(n+1) + リン酸 = RNA(n) + ヌクレオシド二リン酸。機能: mRNA の分解に関与。一本鎖ポリリボヌクレオチドを 3'から 5'方向へ連続的に加水分解する。誘導: 細胞老化および終末分化時に上昇する。インターフェロン β (IFN- β) 処理後に上昇する。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。類似性: ポリリボヌクレオチドヌクレオチド転移酵素ファミリーに属する。類似性: KH ドメインを 1 つ含む。類似性: S1 モチーフドメインを 1 つ含む。サブユニット: ホモ三量体 (潜在的)。TCL1A と相互作用するが、PNPT1 エキソヌクレアーゼ活性には影響しない。,

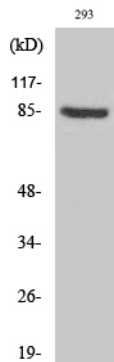
研究分野

プリン代謝;ピリミジン代謝;RNA分解;

画像データ



PNPT1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



1: 1000 に希釈した PNase ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析